



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.13

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とうまく付き合う方法を模索しながらの夏が続いています。婦人会では、COVID-19 と上手に付き合うためにさまざまな活動を続けています。

そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介いたします。

<鹿児島県結核成人病予防婦人会（瀬戸内町地域女性団体連絡協議会）>

瀬戸内町地女連では布マスクを無料配布すべく、町内の福祉施設や小中学校、そして80歳以上の高齢者に2,000枚を寄贈しました（写真1）。

まずは、役員から地区の会員にボランティアをお願いし、きゅら島交流館大ホールを借りて、1カ月かけて作成し、参加者は延べ140人を数えました（写真2）。また、作成終了後には、幸福の黄色いハンカチをイメージした黄色の布にメッセージを書き入れ、建物の壁に掲げています（写真3）。

さまざまな機会に報道されました（写真4）。コロナ終息まで活動はまだまだ続きます。



写真1 ボランティアを代表して、町内各所に寄贈して回りました



写真2 作業の様子、三密を避けるため大ホールを有効活用しました)

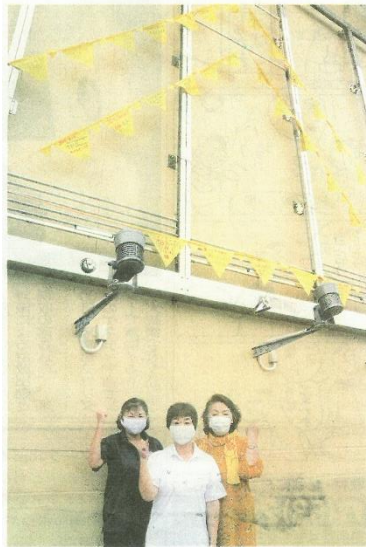


写真3 きゅら島交流館壁面のハンカチは、新型コロナウイルス終息まで掲げられる予定
(黄色いハンカチには、コロナ禍での応援メッセージが書き込まれています)



写真4 新聞などの取材もたくさん受けました



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.14

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）との闘いが始まって7カ月が経過しました。婦人会では、COVID-19と上手につき合うためにさまざまな活動を続けています。

そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介いたします。

<鹿児島県結核成人病予防婦人会（日置地区）>

【日置市地域女性連絡協議会】

日置市では、市の中央公民館を拠点に子ども用の小さいマスク不足の情報を受け、3歳～5歳用のかわいい布マスク作成しました（写真1）。

かわいい絵柄の布を集め、1,000枚を作成し、日置市長に贈呈しました。日置市から市内の各保育園に配布してもらいましたが、保護者はもちろん、子どもたちも大喜びでした。マスクをつけて生活をするのは大変だと思いますが、うれしいメッセージが各保育園から届きました。

①市長にマスク1,000枚をお渡ししました。



②1枚ずつ個包装にしました。



③保育園の子供たちの顔を思い浮かべてつくりました。



④伊集院地域女性連のマスク作りの様子



写真1 マスクづくりから贈呈までの工程はあっという間の出来事でした

【伊集院地域女性連絡協議会】

伊集院町では、マスクが必要な人に届かないという課題を解消するため、未使用のマスクを回収し、必要な方に配布できるようにと考えました。まず、回収をお願いするチラシを作成し（写真2）、回収したマスクをお配りする活動を進めています（写真3）。

この内容は、南日本新聞にも取り上げられました。

マスクは、急激な患者発生に備えて、現在も回収を続け、第2波、第3波に備えています。

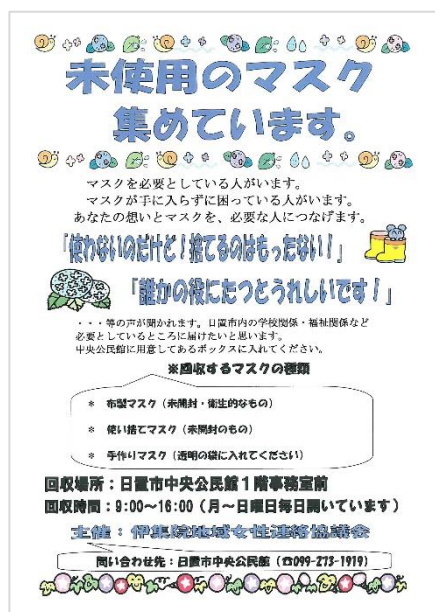


写真2 マスク回収のチラシ



写真3 マスク回収継続中

【吹上地域女性連絡協議会】

吹上町では、布マスクを役員11名で作成しました。吹上地域にある全小学校の児童308名分を寄贈することができました。



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.15

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の終息を待ちわびる婦人会では、COVID-19と上手につき合うためにさまざまな活動を続けています。

そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介いたします。

<鹿児島県結核成人病予防婦人会>

【喜界町地域女性団体連絡協議会】

喜界町では、5月11日に、会員（理事）が、手作りのマスクを待ちに寄付しました。マスクづくりは三密を避けるため、マスク本体部分の作業は自宅で行いました。ただ、耳ヒモ通しや袋詰めなどは、公民館をお借りして、理事全員（16名）で行いました。町の広報誌にも寄贈について記事が掲載されました（写真1）。今後は、COVID-19対策として、清掃活動やごみ拾いなどいろいろな活動の範囲を広げる計画をしています。

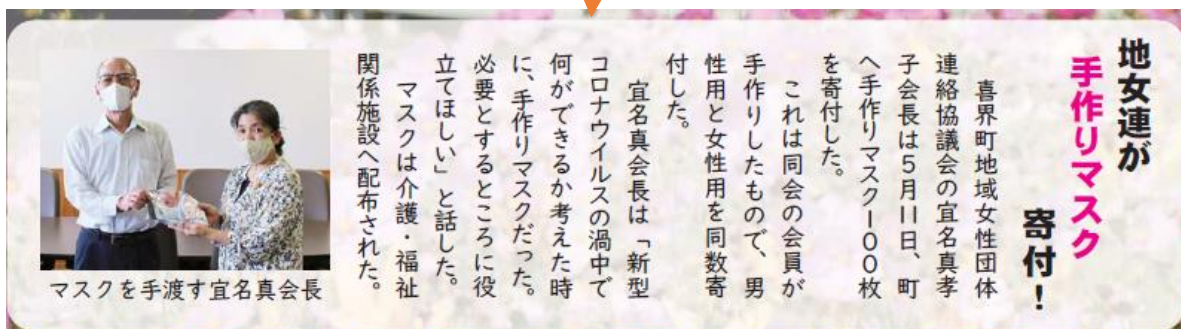


写真1 広報きかいの表紙（6月号）と掲載部分（7ページ上部）

【屋久島町地域女性団体連絡協議会】

屋久島町では、老人クラブの方々と5月にマスク作りを行いました。町内の小、中学校、老人ホームなどの施設に150枚を配布しました。6月にも高齢者サロンの参加者に20枚のマスクを配布しています。

作業は、公民館をお借りして、それぞれが密にならないように分業制で作業を進め、流れ作業で完成させました。

会員の方々の善意をもとに、協力体制を整えられましたが、それも地域の笑顔づくりを感染予防対策のきっかけにできたことが、大きな喜びと感謝につながったと感じています。

【いちき串木野市地域女性団体連絡協議会】

いちき串木野市では、各地区でマスクづくりをしてみようと声掛けをはじめ、市の交流センターなどに集まって、5月上旬に布マスクを2000枚作成しました。

できあがったマスクは、市内の幼稚園・保育園、小中学校へ各地区の女性部が中心となり、持っていきました。

【始良地域女性団体連絡協議会】

始良市では、児童施設若葉学園に手作りのマスクを届けました。会員が材料を持ち寄り、手分けして児童数60人分のマスクを作製し、湊田会長が学園を訪問し、届けました。

7月11日には、「始良市女性のつどい」を始良公民館で開催しました。この会には、始良女性団体、PTAほか70人が参加しました。通常より人数制限をしてお催しとなりましたが、日本赤十字社の先生をお招きし、「新型コロナウイルスの三つの顔を知ろう」というタイトルで、講演を拝聴しました。

この内容は、これからの生活にとっても役に立つことばかりでしたので、会員を通じて、地域の皆さんにも広く伝えていこうと考えています。